

第 13 回 今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会について

2024 年 7 月 10 日に今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会が開催された。

16:00 から 18:00 までの予定で行われた。対面での傍聴者は認められず、ライブ配信での中継となった。200 人ほどが視聴していた。

今回の議題は以下の通りである。

1. 学習指導要領の目標に照らした達成状況とカリキュラム・マネジメントの実態について
2. 「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会」に係る検討状況について
3. その他

対面と WEB 会議を組み合わせた方式で行われ、文科省の会議室からは天笠座長、秋田委員、貞広委員、高橋委員、富士原委員が参加し、その他の委員はネット経由で参加した。奈須委員は欠席していたようだ。

まず、事務局から資料 1 について説明があった。本日は、議題 1 について国立教育政策研究所の大金教育課程研究センター長と富士原委員が発表を行い、議題 2 については秋田委員が発表を行う予定である。

16:05 頃より、国立教育政策研究所の大金教育課程研究センター長が「令和 4 年度小学校学習指導要領実施状況調査の観点から」と題して発表を行った。(発表①)

令和 5 年 2 月～3 月に小中学校を対象に実施したもので、各教科のペーパーテスト、実技調査、児童・教師・学校長対象のアンケート調査が行われた。ペーパーテストからは知識の定着や問いを見出すなどの成果がある一方、現実との関連付けや問題解決などの課題も見られた。アンケートでは概ね肯定的な回答がある一方、教師と児童の認識に差があるという課題も見られた。教育課程に関する質問では、指導の改善に良い効果があったという回答が多かったものの、多忙化や人員確保などの課題も挙げられた。

16:25 頃より、富士原委員が「全国学力・学習状況調査の観点から」と題して発表を行った。(発表②)

令和 5 年度全国学力・学習状況調査について、本題調査とお茶の水女子大学による追加分析の結果から課題を示した。本体調査からは「主体的、対話的で深い学び」、「個別最適

な学びと協働的な学び」「カリキュラム・マネジメント」について、横ばいか向上の傾向にあった。また、他の追加分析では「主体的、対話的で深い学び」は家庭環境に関わらず自己有用感と高い相関があることが示されている。保護者調査による学校比較からは、格差を克服するために教職員の協力や地域との連携が重要であることが示されている。また、小中で指導計画において効果を発揮する点には違いがみられた。これらの結果から得られる知見としては、効果を上げるためには複数の取組を柔軟に変更しながらポイントに注力する必要があるが、教師の負担が大きくなるという課題がある。基礎の復習・反復を重視する傾向が強いが家庭の社会経済的背景 (SES) の影響も大きく残る。SES の低い家庭の子どもこそ思考力・判断力・表現力を育成するべきだと考える。今後は、補習などではなく授業を中心として3つの柱を習得できるようなカリキュラム・マネジメントが必要である。

16:50 頃より、秋田委員が「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会の中間整理案について」発表を行った。(発表③)

この検討会では令和5年12月から既に8回の会議が行われ、幼児教育に関する中間整理案が議論されている。学習指導要領と関連する点としては、幼児教育と小学校教育の円滑な接続がポイントとなる。幼児教育は遊びを中心として多様な体験から主体的に学ぶ「環境を通して行う教育」を基本としている。小学校においてもこのような視点は重要であると考えられ、幼保小が互いの教育を知り連携できるよう普及啓発が必要である。

17:00 頃より、意見交換と質疑応答を行った。

戸ヶ崎委員：①(大金氏の発表について)ペーパーテストで様々な課題が挙げられたが、半世紀前から言われていることと変わっていない。③(秋田委員の発表について)幼児教育から学ぶべき点はあるが、その逆はあまり注目されていない。互いの良さを取り入れて充実させるべきである。例えば、校内研修の知見、ICTの活用、特別支援教育の専門性、地域に開いた施設の在り方など。

荒瀬委員：①学校長調査の中で学習指導要領に前文を設けたことに対する評価が低くて残念だ。②(富士原委員の発表について)教育委員会の支援の在り方は重要であると感じた。教師の献身的な努力に頼って基礎に終始してはいけないとわかった。③架け橋期の教育をどうしていくかについて共有する場が必要だと考える。

貞広委員：②主体的な学びがSESに関わらず効果があるという指摘は、社会的構成の実現という視点から素晴らしいと考える。やりたいけれどリソースがないという現状の課題も示される中で、条件が整備されれば社会的構成の実現に近づけるのか。③環境を通じた教育は説得力がある。人や失敗の経験も環境だと思う。知識の蓄積はできるが自分の中で再構築ができていないという現状の課題は環境を通じた教育で培われると思う。教育分野は地道な改革でしか変わり得ないと考えるが、先生方の頑張りによって十分努力がなされていると思う。

高橋委員：①②教師の多忙化が一番の課題として挙げられていた。やり方を変えていかなければパンクしてしまう。ルーブリックや指導案の流通などに ICT を利用することが考えられる。問題解決能力や情報活用能力が課題として挙げられており、しっかりと鍛えていけないといけない。PISA の報告でも ICT の利用頻度は低く、今後しっかりやらないといけない。紙のテストでは主体的・対話的学びの評価は難しいので、動画を活用するなどいろいろやり方がある。③個別最適な学びには、環境を通して学ぶ方法が少しずつ浸透していて、ICT 利用との親和性も高いと考える。

石井委員：②現場はとても頑張っているが、学びの充実・変革、先生方の手応えにつながっているか実態に即した分析が必要である。また、知識と思考はセットで考えるのが大事であるが、それを切り分ける形に学力観がぶれてきているのではないか。基礎をやらせきる指導は学習習慣をつけるなどの入り口であり、その先にわかる授業などがある。時系列で見ると局面の変化など違った見え方がするのではないか。③発達の適切性をどう考えればよいか意見を聞きたい。

戸ヶ崎委員：②資質・能力を育む授業づくりが本質であって、量的な多寡を問題とすべきではないと理解したがそれでよいか。

天笠座長：カリキュラム・マネジメントがデータとして出てきた。現場で相応に取り組みられているという姿が現れていて、データが次への提起となっていると感じた。ICT・デジタルの環境に対して、幼児期にはどのような対応が必要なのか、そこに課題があるのではないかと思うので、意見を聞きたい。

大金氏：様々な意見を参考に今後の分析に生かしていきたい。中学ではオンライン調査も実施しており、ICT 活用については今後も検討していきたい。

天笠座長：今回は「速報版」ということだが、この後に「確定版」が出るのか、それともこの会のために特別にまとめたものなのか。

大金氏：現在、データは分析作業中である。この会のために先行して「速報版」としてまとめた。引き続き作業を進めてとりまとめていきたいと考えている。

富士原委員：（貞広委員）社会的構成の実現の点で学習指導要領のあり方を考えるという意見に同感。（荒瀬委員）教育委員会の支援については今回ざっくりと省いてしまったが、非常に重要であると考えている。（石井委員）学習感の揺れについてはこれから整理していく必要がある。また、時系列的に局面が変わっていくことについては、それを調査した報告もある。（戸ヶ崎委員）量的な多寡ではなく知識・技能の習得のし方、家庭学習の在り方の本質の部分をカリキュラム・マネジメントで検討すべきということを話したかった。（高橋委員）家庭にコンピューターがあるかないかで格差が広がる可能性があると考えているので、その辺りの充実を検討してほしい。

秋田委員：（戸ヶ崎委員）小学校は地域のプラットフォームになっており、幼児教育との連携接続は重要であると考えている。幼稚園の先生はピア学習も知らない、教科書も見ることがないという現状がある。（荒瀬委員）今後は探究型研修が必要になってくる。教職

員支援機構がモデルを示しながら、どうつないでいくか一緒に進めてもらいたいと考えている。(貞広委員)環境を通しての教育については、環境を大人側が作るだけでなく、子供が共に再構成したり、参画したりしながら作っていくことが重要だと考える。(高橋委員)ICTの中にも環境は作れるし、環境をつなぐこともできるとの意見があった。環境を考え直して深めていくことが重要だと考える。(天笠座長)デジタルだけでなく電子顕微鏡やプロジェクター、図鑑などメディアをどのように環境として入れるかを考えることが重要。(石井委員)「発達に応じた」という所は重要。生活科に面白味がなくなっていないか在り方を考える必要がある。低学年には学級担任は必要だが、丸抱えになるのは問題で、チーム担任という発想が必要。教師にとって都合のよい子供か、それとも民主的市民を育てるのかの別れ目が小学校入学である。

天笠座長：今回の学習指導要領でカリキュラム・マネジメントを導入した。それがどんなふうに受け止められ展開しているのかその一端をデータで確かめた。それが次の学習指導要領の在り方を検討する上で意義があることが確認できた。この議論を精査し、次に反映させていきたい。

次回の予定については、日程調整ののち連絡することとなった。